

令和3年10月13日

令和3年度関東東海北陸農業試験研究推進会議
水田作畑作・作業技術部会 事務連絡

部会長	中日本農業研究センター	転換畑研究領域長	吉永悟志
副部会長	作物研究部門	スマート育種基盤研究領域長	石井卓朗
副部会長	農業機械研究部門	研究推進部長	貝沼秀夫
副部会長	植物防疫研究部門	雑草防除研究領域長	小荒井晃
副部会長	中日本農業研究センター	水田利用研究領域長	荒井治喜

標記の推進会議は、別途公文でお知らせしておりますが、研究会では「「みどり戦略」推進に向けた課題整理と取組の紹介」、部会本会議では、「推進すべき技術的課題」の検討と「研究成果の相互の紹介」を中心に実施いたします。
つきましては、関係者のご出席と資料作成をよろしくお願い申し上げます。

記

1. 開催日時：

研究会 令和3年11月18日（木）13：15～17：00

部会本会議 令和3年11月19日（金） 9：00～12：00

2. 開催方法 Microsoft TeamsによるWeb会議

3. 議 事

<研究会>

「みどり戦略」推進に向けた課題整理と取組の紹介

食料・農林水産業の生産力向上と持続性の両立をイノベーションで実現する「みどりの食料システム戦略」が令和3年5月に策定され、作物生産研究において、このような動きと連携して技術開発を加速する必要がある。そこで、当該地域における「みどり戦略」推進に向けた課題の整理や研究情報の共有をもとに今後の研究の方向性について討議する。

1) 話題提供 13：20～15：20（予定）

①「みどりの食料システム戦略」の概要

農林水産省 大臣官房政策課技術政策室 課長補佐 藤田由美子 氏

②有機農業に関する技術開発の現状と今後の課題

農研機構 中日本農業研究センター 温暖地野菜研究領域 三浦重典 氏

③衛星データ等を活用した大規模畑作地帯でのデータ駆動型小麦生産の取り組み

農研機構 北海道農業研究センター 寒地畑作研究領域 奥野林太郎 氏

④水稲作におけるデータ駆動型施肥管理による肥料節減と収量向上

農研機構 東北農業研究センター 水田輪作研究領域 白土宏之 氏

⑤「みどり戦略」に関連する農研機構参画プロジェクト等の紹介（仮）

農研機構 担当者

2) 都県からの情勢報告 15:30~16:50

* 関東東海北陸地域での「みどり戦略」に関わる研究情勢について情報交換を行います。

-----本部会に関わる「みどり戦略」項目-----

みどりの食料システム戦略のうちの具体的な取組のうちの

(2) イノベーション等による持続的生産体制の構築

① 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換

* スマート農林水産業の推進（リモートセンシングによる生育・病害虫管理技術の確立、土壌や生育診断等データに基づく施肥マネジメント技術の開発、除草ロボット等）

* 化学農薬の低減（水田の水管理による雑草抑制、有機農業の推進等）

* 化学肥料の低減（地力維持等を考慮した輪作体系の構築、堆肥等の有機資源を活用した施肥体系の確立、有機農業の推進等）

<部会> 11月19日 9:00~12:00

1) 雑草被害と対策に関する情報交換

* 関東東海北陸地域における問題雑草の被害と対策に関して議論を行います。また、各都県にご協力いただいている「全国の水田における雑草イネの発生状況調査」の結果から関東東海北陸地域の発生状況をご報告します。

2) 品種育成に関する情報交換

* 水稲、麦類、大豆の新品種の紹介や育成に関する動向について情報提供します。

3) 地域研究・普及連絡会議で取り上げられた国が推進すべき技術的課題に関する検討

* 「技術的課題」について分野別に課題を整理して情報交換や連携に関する検討を行います。

4) 都県・独法の研究成果の相互の紹介

部会としての「イチオシ」を検討（最新農業技術・品種2022の推薦候補）

* 昨年度の研究成果の情報共有を行うとともに、部会から提出する「最新農業技術・品種2022の推薦候補」を選定します。

5) 分野における研究情勢に関する意見交換

* 各都県の研究情勢の報告をもとに、情報交換と討議を行います。部会の運営に関する要望についても討議します。

6) その他

4. 資料の作成について

資料作成は任意ですが、会の趣旨をご理解いただきご対応のほどお願い申し上げます。

様式は別紙の通り（適宜アレンジしていただいて結構です）。

<研究会資料>

* 関東東海北陸地域における「みどり戦略」に関わる研究情勢について情報交換。

下記に該当する研究の取組（予定を含む）についての情報をもとに討議を行い、情報共有や連携を進めたいと考えております。

みどりの食料システム戦略のうちの具体的な取組のうちの

2. イノベーション等による持続的生産体制の構築

1) 高い生産性と両立する持続的生産体系への転換

(1) スマート農林水産業の推進（リモートセンシングによる生育・病害虫管理技術の確立、土壌や生育診断等データに基づく施肥マネジメント技術の開発、除草ロボット等）

(2) 化学農薬の低減（水田の水管理による雑草抑制、有機農業の推進等）

(3) 化学肥料の低減（地力維持等を考慮した輪作体系の構築、堆肥等の有機資源を活用し

た施肥体系の確立、有機農業の推進等)

上記の(1)～(3)について本部会に関連する取組について、

①実施中の課題(課題名と内容の概略)

②今後の取り組み予定(予定の概略、連携の要望)を簡略に記載してください。

様式:別紙1(適宜変更可)。A4縦置き 余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

<部会資料>

1) 都県・国立研究開発法人の研究成果

各都県で得られた令和2年度研究成果の相互紹介を実施します。令和2年度以前の成果であっても、最新農業技術・品種2022として普及すべき成果候補は対象とします。積極的にご紹介をお願いします。

各都県で利用されている様式のままで結構です。A4縦置き 余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

2) 分野における研究情勢に関する意見交換

当部会に関連する研究情勢の概要、今後、生産現場で問題となりそうな事項についてご報告ください。

様式:別紙2(適宜変更可)。A4縦置き 余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

3) 部会に対する要望事項

次年度の本部会研究会で取り上げるべきテーマや当部会への要望、他部会への要望がある場合に作成してください。

様式:別紙2(適宜変更可)。A4縦置き 余白を縦横それぞれ25mm以上取ってください。

研究会および部会用資料はメール添付ファイルで、事務局宛にお送りください。

締め切りを11月12日(金)17時とします。

5. 会議出席申し込み

出席申し込み(エクセルファイル)に記載し、メール添付ファイルで、事務局宛にお送りください。締め切りを11月5日(金)17時とします。参加申込書に記載頂いたアドレスにTeamsのURL等をご連絡します。

6. 事務局(部会担当):

農研機構 中日本農業研究センター転換畑研究領域 栽培改善グループ 松崎守夫

Tel: 029-838-8425、E-mail: kanto-suiden@naro.affrc.go.jp (matsu@affrc.go.jp)

*各種関連情報は下記の中日本農業研究センターWEB サイト内の推進会議ページにも掲載します。

https://www.naro.go.jp/laboratory/carc/contents/suishin_kaigi/

7. 会議のフロー

会議参加申し込み（別紙出席申込書、ML登録用）：11月5日（金）17:00まで
資料提出：11月12日（金）17:00まで

1) 研究会資料

2) 部会資料

①各機関の研究成果情報

②都県における研究情勢

③部会に対する要望事項

*事務局宛（kanto-suiden@naro.affrc.go.jp）に送付



資料配布+URL通知：11月16日（火）12:00まで（変更の可能性あり）

事務局より参加者へ送付（閲覧用パスワードは別送）



接続テスト：11月17日（水）未定（別途ご連絡）

通知のURLをもとに接続テストを行います。



研究会+部会：11月18日（木）～19日（金）

当日18日は、早めに接続を可能として、トラブルを回避したいと思います。